

山形高等学校大学昇格期成同盟会日誌（並大学関係同窓会日誌）

The Journal of the Association for Upgrading Yamagata Higher School to Yamagata University, Including Journals of YU-related Alumni Associations

豊田 龍平

TOYODA, Ryuhai

【キーワード】 旧制山形高等学校 新制国立大学 高橋里美
Key words: Yamagata higher school, National universities, TAKAHASHI Satomi

はじめに

ここに紹介するのは、ふすま同窓会^①が現在所蔵する旧制山形高等学校に関する資料（以下、ふすま同窓会所蔵資料という）のうち、同校及び同校同窓会により推進された戦後の新制大学昇格運動の展開を時系列で把握することができる日誌である。

本資料はこれまでの山形大学沿革史や各学部の創立記念誌でも取り上げられておらず、山形大学成立史に関する通説的理解を再検討する上でも重要な一次資料であることから、今回その内容の翻刻を試みた。さらに、ふすま同窓会所蔵資料の目録巻頭に記された「ふすま関係資料のこと」と題するメモの内容を付録として紹介する。これにより、旧制山形高等学校に関する資料の「発見」からふすま同窓会館に保管されるまでの経緯の一端が明らかとなる。

ふすま同窓会所蔵資料について

現在、筆者は昭和二十四年（一九四九）五月三十一日に公布・施行された「国立学校設置法」^②を根拠にいわゆる地方国立大学として誕生した山形大学の創設過程に注目し、大学を構成する各学部の母体として包摂された旧制高等教育機関の動向や役割などを明らかにするべく研究している。平成三〇年（二〇一八）から取り組んでいる資料調査の過程で、ふすま同窓会館には旧制山形高等学校の公文書や同校同窓会・父兄会に関する資料だけではなく、山形師範学校や米沢工業専門学校の大学昇格に関する資料、他県の動向に関する資料、さらに中央省庁（文部省）の公文書が残されていることが判明した。なお、これら資料の目録にはおよそ二八〇件の表題が記載されている。

ふすま同窓会館に資料が保管されている経緯などについては、目録作成者である伊藤博^③氏が記した「ふすま関係資料のこと」と題するメモに詳しい。これによると、その当時、旧制山形高等学校に関する資料は山形大学理学部^④会計係の倉庫の一角に雑然と置かれていたが、倉庫整理の際^⑤にいよいよ処分することとなった。その際、旧制山形高等学校卒業生でその当時文部事務官として山形大学に在職していた伊藤氏に資料の取り扱いに関する相談があり、その結果、昭和五三年に山形大学附属博物館^⑥へ一時寄託された。その後、平成四年にそれらはふすま同窓会館の竣工を契機としてふすま同窓会へ返還され、伊藤氏が資料整理番号を付して目録を作成し、ふすま同窓会館に保管された。すなわち、ふすま同窓会館には処分されるはずだった資料がその難を逃れて今日に至るまで残されているのである。

上記のふすま同窓会所蔵資料は、目録によると旧制山形高等学校開校当時の資料や当時の学生に関する資料、校旗、学生寮の扁額、古写真などからなる。ただし、資料が目録の整理番号ごとに整列されているわけではなく、目録も整理番号と表題とが記されている程度である。さらに、目録作成後に同窓会が新たに収集した資料なども混在している状態である。したがって、今後も継続して資料の整理及び精査を行っていく予定である。

日誌について

今回翻刻した日誌は、「山形高等学校」と書かれた二四行の縦罫紙二五枚を二つ折りにした五〇頁分及び「罫紙第二号」山形二三」と書かれた一四行の縦罫紙七枚がB5判右とじて冊子状に綴られている。なお、「山形高等学校」と書かれた縦罫紙は戦前の同校入学試験問題・解答用紙の裏面を再利用したものであり、採点がなされた答案の裏面に罫線の枠が印刷されている^⑦。

本資料は表紙を兼ねる厚紙に包まれており（図1 日誌の表紙）、その本文は昭和二二年（一九四七）三月六日から始まり（図2 日誌の1頁目）昭和二四年三月四日までで終わっている。なお、「山形高等学校」と書かれた縦罫紙には昭和二三年九月一六日までの内容が記載されており、「罫紙第二号」山形二三」と書かれた縦罫紙には同年九月二五日からの内容が続く。また、青色のインクで各年月日の印が押されていることが多く、主に縦書き、ペン書きで事項が記載されているが、罫線の枠外への記載や鉛筆書きによる追記もみられる。さらに、筆跡が異なる箇所があることから、執筆者が複数人存在したと考えられる。このことについて、当時の同窓会事務所が旧制山形高等学校内に置かれ、その事務を同校生徒課の職員が担当していたことから、当該期の生徒課職員が関与したものとと思われる。

本資料の主な記載内容は、旧制山形高等学校同窓会の会合や新制大学昇格に関する委員会の議題や出席者、寄附金募集の取組状況、旧制山形高等学校教授会の開催日時や議題、文部省や山形県・市、

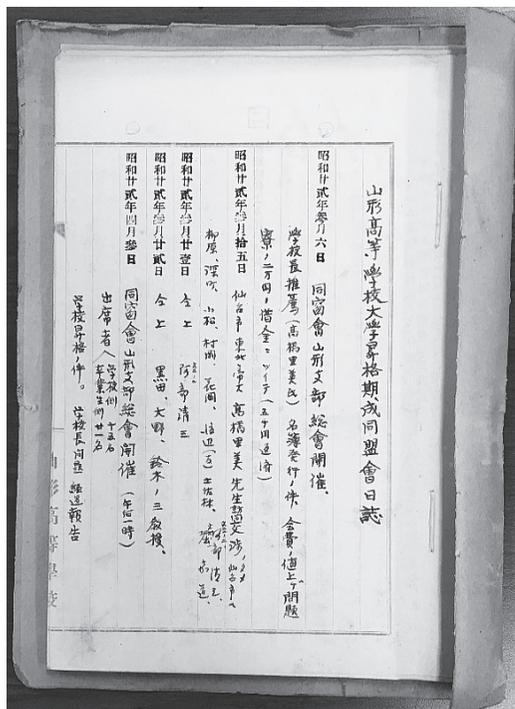


図2 日誌の1頁目(筆者撮影)

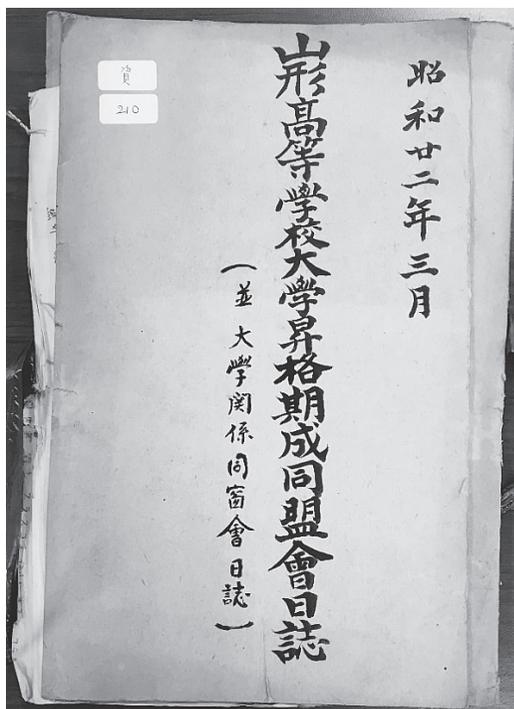


図1 日誌の表紙(筆者撮影)

他の県内旧制高等教育機関との打合せに関する事項などである。

これらの記載から、新制大学昇格運動は同窓会、父兄会及び学校側が緊密に連携し、ときに官公庁や地方自治体、報道関係者、地域の有力者をも巻き込みながら展開したことが明らかとなる。さらに、昭和十二年九月までにおいては山形県出身の哲学者でその当時東北帝国大学法文学部教授だった高橋里美³⁾を校長に就任させるための活動が新制大学昇格運動の一部として展開していたこと、昭和二三年一月から七月までにおいては東北大学との合併により大学昇格を成し遂げようとする運動が本格化して寄附金募集活動や文部省との折衝が行われていたこと、それ以降においては東北大学との合併断念により山形大学創設に向けた準備を他の山形県内旧制高等教育機関と連携協力して進めていたことなどが分かる。

凡例

- 一、漢字は原則として常用漢字に改めた。
- 二、仮名遣い及び句読点については原文のままとした。
- 三、筆者による注記は右傍に「(」で記した。疑義のある箇所には傍にママを付し、正しい表記が明らかなる場合は傍に「(」で示した。
- 四、資料の本文中、罫線枠外への記載箇所は「」で記した。
- 五、資料の本文中、鉛筆書きによる追記箇所は「」で記した。
- 六、資料の本文以外の部分は「」で記した。
- 七、資料には経費関係の綴りも含まれているが、今回の翻刻対象から除いた。

〔美紙包紙〕
昭和廿二年三月

山形高等学校大学昇格期成同盟会日誌

〔並大学関係同窓会日誌〕

深町弘三 大畑末吉 黒田稲夫 尾関文二郎 村岡哲

黒沼栄一 神谷寛秀 仲野半四郎 ・岡部美二

佐藤淳治 矢口三之輔 長岡匡吉 ・中村伊太郎

高山英夫

〔美紙包紙〕
◎準備委員 (10名)

(学校側) 柳原 安斎 小松 村岡 花岡 神谷

(卒業生側) 縄野 篠田 渡辺 古沢

仙台

朝倉医院

電八八六番

◎大学昇格実行委員 (10名)

柳原吉次 田中菊雄 深町弘三 小松撰郎 花岡謹一郎

寺崎恒信 長谷部昇 大野敏英 村岡哲 黒田稲夫

山形高等学校大学昇格期成同盟会日誌

◎同窓会役員

・常任理事 深町 黒田 神谷

・理事 柳原 田中 安斎 尾関 黒沼 仲野

・事務 佐藤(淳) 矢口 中村 高山 渋谷 高橋

・市内 縄野 篠田 武田 渡辺 古沢

昭和廿二年参月六日

同窓会山形支部総会開催、

学校長推薦(高橋里美氏) 名簿発行ノ件、会費ノ値上げ問題

寮ノ二万円ノ借金ニツイテ(五千円返済)

●父兄会幹事

一年 遠藤純平 眞野常雄 村山道雄 斎野直吉

二年 高橋常治 高橋喜三 関市弥

三年 大内有恒 大内清 三浦久松 栗田権三郎 佐藤豊

尾形六郎兵衛 (学) 中村伊太郎 篠原道喜

千喜良英之助 阿部彦市 (学) 仲野半四郎

昭和廿二年参月拾五日

仙台市東北帝大高橋里美先生訪問交渉ノ夕メ仙台市へ

柳原、深町、小松、村岡、花岡、渡辺(友) 土佐林、

文三ノ二阿部清三、文三ノ一堀嘉道

(学) 岡部美二二

昭和廿二年参月廿壹日

学校側 高橋里美 柳原吉次 田中菊雄 田島福重 安斎徹

同上 文三ノ二阿部清三

昭和廿三年参月廿式日

同上 黒田、大野、鈴木ノ三教授、

昭和廿三年四月参日

同窓会山形支部総会開催(午後一時)

学校側 十五名

出席者へ

卒業生側 廿一名

学校昇格ノ件。

学校長問題経過報告

交渉委員決定(四月六日仙台行き)

(田中 安斎 鈴木 神谷 古沢、土佐林)ノ六氏

学校側：柳原校長代リ外廿一名

実行委員決定へ

卒業生側：縄野文男氏外廿六名

寄附金一、三〇〇円受理、卒業生側一人金百円ツツ

昭和廿三年四月六日

仙台市東北帝大 高橋里美先生訪問交渉

(田中、安斎 神谷 鈴木 古沢 土佐林ノ六氏)

昭和廿三年四月七日

委員会開催、(午後七時)

学校側：柳原校長代リ外廿七名

出席者へ 卒業生側：篠田氏 外五名

生徒側：堀嘉道

安斎教授 報告：(高橋先生交渉ノ顛末)

古沢氏ノ報告

田中教授ノ報告

文部省二電報発送

同窓会役員ノ改選

昭和廿三年五月廿壹日

するめ、鉛購入(一五五円)

昭和廿三年五月廿参日

学校昇格促進運動実行委員会開催(午後七時)

学校側：十六名

出席者へ 卒業生側：八名

新聞ふすま：二名

左記決定

●山形高等学校昇格運動期成同盟会設立ノ件

県知事

●意志表示へへ

市長

〔○〕●基礎〔起草〕委員選定（具体案ヲ作ル）
安齋 渡辺 一ノ三氏
古沢

昭和廿貳年六月参日

学校昇格運動準備委員会開催（午後七時）
於古沢氏宅

参会者 安齋 徹

委員 一 渡辺 友次郎 ノ三氏 外二神谷貫秀氏

古沢 久次郎

打合事項 1、山形高等学校昇格期成同盟会設置ノ件

2、事務所 学校内ニ置クコト

学校側 一 柳原、安齋、小松、村岡、花岡、神谷、

〔○〕準備委員 一

卒業生 一 繩野 篠田 渡辺、古沢、

昭和廿貳年六月拾参日

期成同盟準備委員会開催

於 旭銀座フジヤ、午後七時、経費三百十円、

学校側 一 柳原準備委員長外七名

参会者 一

卒業生側 一 繩野委員外二名（古沢市早退セラル）

期成同盟会ノ規約草案ヲ作製、総会開催ノ件決定

六月廿一日（土）午後一時、於図書閲覧室、

〔菓子代三二〇円〕

昭和廿貳年六月拾七日

大学昇格促進運動ニ関シ文部省へ出張

田中菊雄教授

大畑末吉教授 一 本日午後三時仙山線經由上京ス

黒田稲夫教授

昭和廿貳年六月拾九日

山新へ広告

同窓会総会開催ノ件（学校昇格促進運動ニ関シテ）

昭和廿貳年六月廿日

① 打合会開催

集会者、安齋、村岡、花岡、大野、神谷ノ五委員

② 才茶百匁購入ス（同窓会ニテ支弁ス）

昭和廿貳年六月廿壹日

（土）午後一時

同窓会総会開催

学校側 二十一名

参会者

卒業側 十七名

1、柳原校長代理 経過報告

一 三十八名

2、同盟会規約朗読並ニ審議

3、黒田、安齋、花岡各教授ヨリ経過報告アリ
午後三時三十五分盛會裡ニ閉会セリ

昭和廿貳年六月廿四日

東京へ連絡

阪本越郎、竹石、中村、神谷、宇ノ沢ノ五氏へ同窓会總會ノ模様並

ニ規約等送付連絡ス

昭和廿貳年七月尅日

準備委員会開催（午後二時半ヨリ教官談話室ニ於テ）

参会者（学校側丈）柳原委員外六名

一、常任理事

一ノ人選ヲ行フ

一、理事

常任理事

県及県会

県課長以上 県会議員全員

市及市会 四市長 助役

山形市課長、（四市会議員）

県内外ノ有力者 高橋熊次郎 大久保伝蔵

同窓会

学校関係 山高全教職員 各級長

父兄会 山形在住ノ父兄

各町村長

官公庁

税務署長 警察署長 測候所長 專買局支局長、

各地方事ム所長 営林署長 農試 工試 水試長 山形駅長

山形管理部長 山形郵便局長 中等学校長 商工会議所

農業会 山形交通 東北配電 ガス会社 医師会長

七月八日

神谷教米沢へ出張

〔山形―米沢切符代九円四〇銭〕

昭和廿貳年七月拾九日

（土）午後一時ヨリ、同窓委員会合ス、

旭銀座 ニツセイニ於テ

参会者―神谷教授外同窓会員中若イ連中、

昭和廿貳年七月廿參日

東京会合

外務省地下室ニ於テ

参会者 十四名（卒業生側十二名）

（学校側 柳原 黒田両教授ノ二名）

昭和廿貳年七月廿八日

書状（ ）千枚出来上ル（石沢活版所ヨリ）

昭和廿三年七月卅壹日

西洋紙(五百枚)封筒(千枚)購入(石沢活版所ヨリ)

昭和廿三年八月老日

午後一時 教官談話室ニ於テ

教授会開催、大学昇格ノ件ニツイテ

四十円

1、教官ノ寄附金百円トシ 三十円 一ノ三回二分納

三十円

昭和廿三年八月拾五日

寄附金、一四四〇円(教官三六名分)

本校会計課ヨリ受取ル

昭和廿三年八月廿參日

山形新聞社ニ神谷教授、佐藤(淳)教官 富岡囑託ノ三氏行キテ

常任理事、理事ヲ委嘱スルモノ、姓名、職業、住所等ヲ写シ取ル、

昭和廿三年八月廿五日

同上、佐藤(淳)富岡 浅井、羽鳥(図書課)ノ四名、

昭和廿三年八月廿七日

同上、神谷教授、佐藤(淳)、富岡、浅井、峯田ノ五名

昭和廿三年八月廿八日

同上、佐藤(淳)富岡、浅井、峯田ノ四名

昭和廿三年九月三日

東京連絡 文部省学徒厚生課加藤寛氏ヨリ連絡アリ

[101]

昭和廿三年九月四日

午後三時

準備委員会開催

出席者、安齋、小松、大野、花岡、村岡ノ各教授 佐藤(淳)

1、第一次理事委嘱スル人名ヲ選ブ

2、事務局設置ノ件

3、山形新聞社へ謝礼金額決定(百円)

4、準備金十万円募集ノ件

5、規約千枚印刷ノ件

昭和廿三年九月六日

午前十時

事務部会開催 教務課ニ於テ、

寄附金決定ス

1、本官八百円 …………… 40 30 30 二

2、嘱託雇員八五十円 ……三ヶ月月賦 …… 20 15 15 二分割シテ納付

3、巡視小使八十円 …………… 10 10 10 二

[101]

昭和廿貳年九月六日

寄附金二千五百円也受理

代表者^{文三ノ二}阿部清三

大学昇格資金獲得 アルバイト

(自転車預所、上ノ山競馬場)

八月二十二日ヨリ八月二十四日マデ

期日

一六日間

八月三十日ヨリ九月一日マデ

氏名(一)文三ノ二阿部清三、文甲三板垣正二、

理甲三 高橋和夫 理乙二根岸明章

理甲二 井上準之助 理甲二井上鋼一

文一甲斯波正輝 文一乙朝倉 孝

二十一年度卒高橋和夫 一 九名、

昭和廿貳年九月八日

期成同盟会規約(千枚)印刷出来上ル、

昭和廿貳年九月拾壹日

西洋紙一千枚

石沢活版屋ヨリ謄写版摺用トシテ右購入ス

昭和廿貳年九月拾壹日

教授会

午後二時半ヨリ教官談話室ニ於テ開催ス、

1、学校長問題。

高橋里美先生 学校長 後任 受諾セラレタル処左記電報ノ通

リ辞退セル旨本日通知アリ

貴校転任の件お受けしたるも其の後身の事情変化し辞退するの他なく此の旨文部省へも願出でたるにつき御了解得たい

尚詳細文

2、右につき安齋教授

東置賜郡上郷村上新田の高橋里美先生を訪問することゝなり九月十二日出発す、

昭和廿貳年九月拾貳日

本日安齋教授 高橋里美先生を訪問す

昭和廿貳年九月拾參日

出張

1、本日神谷貞秀教授米沢工業専門学校ニ赴キテ大学昇格問題ニツ

キ打合ヲナス、(汽車賃支出ス 32円)

教授会

2 午前十時十五分ヨリ教官談話室ニ於テ教官会議ヲ開ク、

(学校長問題等ニツイテ)

3、生徒大会 第三校時第四校時 講堂ニ於テ開催、

文化祭ノ件 大学昇格ノ件等ニツイテ

4、打合会 午後六時半ヨリ古沢氏宅ニ於テ

安齋教授及繩野、篠田、渡辺、古沢ノ四氏会合シ
学校長問題

等ニツキ打合セヲナシタリ

大学昇格問題

〔汽車賃三二円〕

昭和廿貳年九月拾參日

学校職員寄附金貳千五百圓老阡九百參拾円受領ス

昭和廿貳年九月廿貳日

高橋里美氏

昨廿一日みえられ本校々長就任を御引受けなさいました。

昭和廿貳年拾月拾壹日

学校職員寄附金千七百五拾円受領ス

昭和廿貳年拾月六日

山形師範学芸大学昇格期成同盟会発会式本日挙行ニツキ本校ヨリハ

柳原校長代理並ニ佐藤（淳）教官之ニ臨席ス

昭和廿貳年十一月拾參日

学校職員寄附金六万七拾円受領ス

昭和廿貳年十二月四日
実行委員会開催

教授会終了後教官談話室ニ於テ実行委員並ニ深町教授ヲ交ヘテ打合
会ヲ開催ス

午後五時半頃閉会ス

1、学校側

（議題） 2、同窓会 一 合同打合会開催ノ件等ニツイテ

3 父兄会

〔〇〕

昭和廿貳年十二月廿日

大学昇格期成同盟会速進運動ニ関スル打合会

午後二時開会 教官談話室ニ於テ

出席者 学校側 十六名

同窓会側

二名

父兄会側

五名

1、高橋学校長ヨリ大学昇格ニツイテ詳細ナル御懇話アリ

2、大内父兄会長ノ動議ニヨリ父兄会員ノ寄附金ハ左ノ通り決定可

決ス

在校生ノ父兄 五百円

入学生ノ父兄 五百円

但し前ニ醸出シタル金額ヲ含メテ五万円トシテ善イコト

3 同窓会ノ方ハ左ノ如キ意見アリタリ

○連絡ノアル処カラ金ヲ集メルコト 金額ヲキメテ、

先ツ市内カラデモ

○会員ノ住所ハクラス代表ニ依頼シテ住所ヲ纏メテ貰フコト

〔○新年ニナツテカラ↑〕

〔二月六日以後〕

〔○教育会館ニ於テ〕

〔○新年会ヲカネテ〕

○同窓会支部總會ヲ開イテ集金ノ方法ヲキメルコト

○寄附金ヲ貰フ前ニ案内状ヲ發送スルコト

父兄会ノ委員―遠藤純平氏

4、行政監察委員会ヲ決定スヘ

同窓会ノ委員―渡辺友次郎氏(保健)

縄野文男氏

参考 茶菓トシテ左ノモノヲ附ケ

パン 一ケ 十円ツヽノモノ

ミルク 一杯 六円ツヽノモノ

みかん 二ケ 一ケ約六円位

才茶

閉会 午後五時半 盛會裡ニ閉会ス。以上。

昭和廿貳年十二月廿七日

發送 同窓会新年總會(大学昇格の件をかねて) 開催

案内状 八十九通 發送ス

昭和廿參年壹月八日

午後四時教育会館ニ於テ同窓会新年總會ヲ開キ席上大学昇格運動推進ノ具体的方策ニツキテ懇談ヲナス

1、一口金五百円以上ノ寄附金ヲ募ルコト。

昭和廿參年壹月廿貳日

打合会 午後一時半 庶務課ニ於テ

出席者 常任理事 渡辺友次郎 ギ

” 黒田 教授

” 神谷 教授

鈴木 教授 佐藤(淳) 事務

仙台支部設置ニ関シテ高橋会長 鈴木教授1名

仙台行キノ準備打合会開催。

昭和廿參年壹月廿九日

仙台支部 開催

本廿九日午後六時朝倉支部長宅ニ於テ開催

会スルモノ左記八名ナリ

朝倉久松、柏倉俊三、細谷恒夫、朝井一男

逸見惣作 船山信一 大内清太 品川信良

決議事項 二月七日朝倉支部長宅ニ於テ總會開催準備委員会開催

ノ件、(右ノ八名ハ準備委員トナリテ)

本部ヨリハ金壹千円補助セリ

昭和廿三年参月拾九日

役員会 午後七時校長室ニ於テ 同窓会、父兄会合同役員会開催セリ会スルモノ廿余名。

(大内父兄会長 縄野常任理事等来校)

入学試験漏洩問題ニツキテ学校側ヨリ報告

後種々善後策ニツキ雑談ヲカワシ午後十二時閉会セリ

(役員八十時頃)

〔才茶代五〇円 林ゴ代五二五円〕

昭和廿三年参月廿二日

黒田庶務課長ヨリ事務員一同ニ対シ大学昇格経過報告アリ

昭和廿三年参月廿四日

渡辺(友)常任理事 佐藤教官 寄附金関係封鎖支拂ニ関シテ県学務課ニ出頭ス

昭和廿三年四月拾五日

大学昇格関係寄附金募集ノタメ第一回卒業青木亨外六二三名へ寄附金募集要項並ニ趣意書等ヲ発送セリ

〔手伝人へ支給用 林ゴ せんべい代〕

昭和廿三年四月廿八日

大学昇格関係寄附金募集書状百式拾通、発送セリ

昭和廿三年四月三十日

大学昇格問題ニ関シテ打合せ 県庁ニ於テ開催本校ヨリハ深町先生 花岡先生 大野先生出席ス

昭和廿三年五月五日

午後三時ヨリ校長室に於テ大学昇格委員会ヲ開ク

昭和廿三年五月六日

午前九時米工専ヨリ教授三名大学昇格問題ニツキテ来校

昭和廿三年五月六日

〔◎〕当校 大学昇格委員 左ノ通り
柳原 吉次

田中 菊雄

深町 弘三

小松 摂郎

花岡 謹一郎

寺崎 恒信

長谷部 昇

大野 敏英

村岡 哲

黒田 稲夫

(以上10名)

昭和廿參年五月七日

午後三時 教官談話室ニ於テ事務員備人一同ニ対シ黒田庶務課長ヨリ
リ大学昇格ノ経緯報告
報告セラル

昭和廿參年五月八日

午前九時 校長室ニ於テ師範学校 青年師範学校 本校側ト大学昇
格協議会ヲ開ク

昭和廿參年五月拾五日

○午後一時 於校長室 昇格委員会アリ

○午後三時 於談話室 教授会アリ

○封鎖引出ニ関スル書類三行 日本銀行山形事務所ニ送り依頼スル
処アリ (大藏大臣宛ノモノ)

昭和廿參年五月廿日

役員会 (父兄会 同窓会)

午後七時ヨリ校長室ニ於テ父兄会幹事、同窓会常任理事 理事招集
シ高橋校長先生ヨリ大学昇格ニツイテ詳細才話アツテ座談会午後十
時閉会シタ

参会者 父兄会 三浦博士、^(父兄)遠藤純平、高橋喜三 3

同窓会 渡辺友次郎、 1

学校側 高橋校長、柳原 花岡 小松 村岡 深町

田中 黒田 大野 9

佐藤 (淳)、高山、渋谷、峯田 4

計17

(順序不同)

昭和廿參年五月廿參日

一年寮生大会 午後九時寮食堂ニ集合シ東北大学合併問題ニツキテ
協議ス

昭和廿參年五月廿四日

生徒大会

1、一年生徒大会 午前九時ヨリ講堂ニ於テ開催

2、全生徒大会 第三校時ヨリ講堂ニ於テ開催

議題ニ何レモ東北大学合併問題ナリ、
教授会 午後開催アリ (学校長ノ都合ニテ中途ニテ閉会ス)

昭和廿參年五月廿五日

大学昇格委員会 午後三時校長室ニ於テ委員会アリ、

昭和廿參年五月廿六日

○県庁ニ於テ午前十時ヨリ大学昇格委員会開催サル、

○大学昇格委員会

午後五時半頃ヨリ右会議ノ結果ニヨリ委員会ヲ開催ス、

○寮生大会

午後九時ヨリ食堂ニ於テ寮生大会を開催ス

昭和廿三年五月廿七日

教授会 午後三時ヨリ教授会アリ、

昭和廿三年五月廿九日

↓東北大 評議員会ニ於テ 山高校 東北大合併問題
併合ノコトニ決定セラレタル由、

昭和廿三年六月壹日

大学昇格委員会

午後三時 校長室ニ於テ開催ス、

昭和廿三年六月貳日

高橋学校長、小松教授、花岡教授 仙台市へ出張

六月三日

二高二於テ東北 高校長会議アリ

昭和廿三年六月四日

午後三時ヨリ大学昇格関係教授会アリ（会議室）

昭和廿三年六月五日

——渡辺友次郎氏 午前八時来校す

昭和廿三年六月七日

午後三時校長室に於テ大学昇格委員会あり

昭和廿三年六月九日

○高橋学校長 急行ニテ上京セラレ十一日 佐武総長ト文部省ヲ
訪問スルコト、ナル

○午後三時 校長室ニ於テ大学昇格委員会ヲ開ク、

昭和廿三年六月九日

發送

東北大へ合体ニ関スル書状 左記發送ス

県会議員 五〇名

市会議員 三六名 一計一〇二名（料金別納一二二・四〇）円

市長 外有力者 一六名

参議員、衆議員：一一通（庶務課ヨリ）

六月十一日 有力者へ追加發送 廿五通（ ） 三〇円

六月十四日 同上 一二通（庶務課ヨリ）

合計 一五〇通

六月十四日

米沢 花岡教授出張

〔汽車賃一四二円〕

昭和廿參年六月拾六日

〔○〕午前中校長室ニ於テ大学昇格委員会アリ

①出張 米沢工専校へ 小松 花岡兩教授

2、" 青年師範へ 黒田 大野兩教授

③、教員組合總會 午後三時ヨリ

〔旅ヒ 小松五〇〇円 花岡五〇〇円〕

昭和廿參年六月拾八日

出席者、父兄会七名、同窓会七名、生徒代表四名、学校側15名

計33名

父兄会 同窓会 午後七時 會議室ニ於テ開催セリ

菓子代

九〇〇円

桜桃代

四五〇円

才茶代

一五〇円

昭和廿參年六月拾九日

遠藤純平氏ヨリ左記連絡アリ、

今朝小島源兵衛氏ト鈴木市長ニ面談 大学昇格ノコトヲ話ス

鈴木市長ヨリ経過説明印刷物 封筒(三六枚ツゝ) 送付セラレタシ

スルト市小使ヲシテ市会ギ員宅ニ届ケシメル

六月廿九日

一 市会ニツキ中一日ノ午前中山高実行委員ノ経過報告

六月三十日 二 充テル予定ナリト、

小松教授

一 仙台旅ヒ

花岡教授

昭和廿參年六月廿日

仙台市部同窓会開催 六月十六日電話ニテ照会ス

右同日午後 生徒代表四名 東京都へ上京ス

〔六月廿一日 生徒代表上京ス(委員) 同窓会代表ト共ニ〕

〔六月廿五日 有光文部次官 日高学校教育局長〕

〔六月廿八日 森戸文部大臣へ生徒側及同窓会側ノ陳情書ヲ提出シ

併セテ学校、同窓会、県ノ立場ヲ説明シタ〕

〔六月廿六日 東京同窓会支部ふすま会總會ニ出席シ先輩ノ援助懇

請シタ〕

〔六月廿七日 大学案ノ審議查ニ高橋校長出席シタガ最後の決定ハ

ナカツタ〕

〔右七月三日 生徒代表ヨリ揭示サレタ〕

昭和廿參年六月廿三日

・父兄会 午後二時 校長室ニ於テ開催ス

大学昇格について

・同窓会山形支部 午後四時本校會議室ニ於テ開催した、

会するモノ 卒業生側 十五名

本校側 十二名 (外二手伝五名)

大学昇格について、

昭和廿参年六月廿四日

・大学昇格問題について出張

柳原、田中、深町ノ三教授及渡辺常任理事ノ四名 六月廿三日ヨ

リ六日間大学昇格問題に就テ東京ニ出張スル

・高橋校長

廿四日午前十時 仙山線にて東北大学を訪ね廿六日開催の同窓会

東京支部総会及び大学昇格打合せ(文部省に於て六月廿七日)に

出席の為東京都に御出張、

[上京旅ヒ]

[柳原二、〇七〇円]

[田中二、〇七〇]

[深町二、〇七〇]

[渡辺二、〇七〇]

[よび金四、五〇〇円]

[菓子代]

[・五〇〇円(最中代)]

[・二五〇円せんべい代]

昭和廿参年六月廿六日

東京支部総会ヲ東京大学山上御殿ニ於テ開催

午後一時―同四時

幹事 華山親義

会費 一 百円

中台宏義

参会者 一 百名

奥山勇治

当校ヨリハ

柳原 田中 深町 ノ三教授

及渡辺友次郎常任理事上京出席ス

昭和廿参年六月廿九日

来ル七月二日 遠藤純平氏宅ニ於テ 懇談会開催ニツキ案内状

県議会員(山形市及近郊の方へ)二十名へ發送セリ、

昭和廿参年六月廿九日

一、ラヂオ放送

座談会 午後七時頃放送

花岡教授、商工業会議所会頭 矢野善助

篠田秀男常任理事 第一高等学校 渡利教頭

昭和廿参年七月壹

一、協議会 県会議員ト学校側トノ大学昇格問題ニツイテ

遠藤純平氏宅ニ於テ開ク 午後一時ヨリ

参会者(一、県会議員十一名 小林伝一郎 高橋常治

秋葉久兵衛

奥山英悦 池上久藏

深瀬民吉

大山不二郎不二郎 芦野好友

石田孝一郎

花輪方次郎 柿崎美夫

2、学校側 十一名 高橋校長 深町 小松

大野 花岡 柳原

田中 長谷部 黒田

ノ各教授

高山君 峯田君

3、遠藤純平氏

〔菓子代一、三〇六円〕

昭和廿参年七月式日

一、出張 大学昇格問題ニ関シテ左記ノ仁 仙台市へ出張ス

小松教授、花岡教授 深町教授及長岡高山両事務官。

〔仙台出張旅ヒ 八五〇円 五名分〕

昭和廿参年七月参日

一、懇談会 午後二時ヨリ商工会議所ニ於テ市会議員卜ノ

懇談会ヲ開ク

参会者 一、市会議員11名 加藤市左衛門 尾形勝蔵

垂石宥芳 松沢太治郎

石田孝一郎 外六名

2、学校側13名 高橋校長、黒田、黒柳、

柳原 田中 深町

小松 花岡 長谷部

大野 村岡 渋谷 峯田

3、遠藤純平氏 小島源兵衛氏、

〔商工会ギ所使用料 一〇〇円〕

〔菓子代 一、六四〇円〕

昭和廿参年七月五日

公聴会 米沢工專ニ於テ開催あり

本校ヨリハ 深町、黒田 小松 花岡 黒柳 大野ノ六教授

出席ス、

〔米沢出張旅ヒ 八五二円〕

出張 高橋前校長 仙台市へ午後三時出張セラル

昭和廿参年七月六日

1、緊急教授会 午前九時

2、座談会 松沢太治郎氏ヨリ電話アリ

会場 第四小学校

出席校 山形高等学校―出席者 柳原 田島 田中 深町

大野 黒柳 柏原 ノ七教授

一四、五十名ノ予定

山形師範学校外

主催 山形市教育委員会

市会常任委員

P T A (連合会)

〔七月七日 仙台旅ヒ キ夕^{キタ} 花岡 生徒二名 六八〇円〕

昭和廿參年七月七日

1、懇談会 午前十時 七日町イ七屋二於テ

新聞社関係11人 山新社長 服部敬雄

内五人出

大平慎介[㊤] 小林安治
土屋保男

山新出版社 須藤克三

朝日支局長 萩原友明 降矢[㊤]

毎日支局長 阿部千代松 結城三郎[㊤]

読売新聞支局長 熊坂兵助 山田芳一[㊤]

河北支局長 大和田 博[㊤]

青年タイムス 松田仁兵衛

日本経済新聞 片岡 潔

学校側九名 柳原 深町 小松 黒柳 吉野 野島ノ六教授

外二 遠藤純平(父兄会) 渡辺友次郎(同窓会)

渋谷ノ三氏

合計十四名出席ス

[菓子代 一、五〇〇円]

七月八日

深町

遠藤書店二於テ高橋常治ト学校側三名 田中 ト会谈ス

黒柳

[菓子代 三〇〇円↓]

昭和廿參年七月七日

①午前十時 一校長室二於テ事務主任集会

大学昇格問題ニツキ黒田庶務課長ヨリ経過ヲ才聴シ役割ニツキ相

談ス

②尚前高橋校長先生ノ送別会ニツキテ相談ス、

昭和廿參年七月拾日

一、教授会 午前会議室ニ於テ大学昇格問題ニツキ教授会ヲ開ク

[〇]市議等 市内有力者ヲ訪問シテ了解ヲ得ルコト

、ナリ昨日ヨリ活動開始シタ 各分担シテ、

昭和廿參年七月拾參日

一、面会 父兄会代表 高橋常治 小島源兵衛

遠藤純平 三浦新兵衛 ノ四氏

同窓会代表 縄野文男 渡辺友次郎 松沢太治郎

篠田秀男 古沢久次郎 山口弘三

ノ六氏来校

午前九時北岡学校長ニ挨拶シ大学昇格問題ニツイテ才話ヲスル

[〇]右了ツテ会議室ニ於テ委員会ニ出席ス

[〇]今夜午後七時縄野氏宅ニ於テ山形市支部会員ノ会合アリ

資金募集ニツイテ。

出席者七名 縄野氏 渡辺氏 古沢氏 篠田氏 結城光太郎

黒沼栄一 佐藤淳治

[〇]出張 黒柳 小松 花岡 喜多ノ四教授 仙台市へ出張ス

〔菓子代 五四四円 最中 どちらやき〕

昭和廿参年七月拾四日

委員会 午後二時会議室ニ於テ大学昇格関係資金募集ニツイテ委員
会アリ

昭和廿参年七月拾五日

送別会 午後五時 梅月堂ニ於テ高橋前校長先生の送別会ヲ開イタ

ソノ座上 大学昇格東北大学合併ニ関シ花ヲ咲カセタ

〔会費百九十円 記念写真ヲ含メヌモノ八百六十円トス〕

〔総計九、〇六〇円〕

問題ノ重大性ニ鑑ミ 実行委員約二十名ヲ挙ゲ 内十名ハ
常任実行委員トシ大ニ活動スルコト、シタ

本部事務所ハ遠藤書店主人ノ才話ニヨリ同店階上ト定メ

〔山高東北大学合併促進本部〕トイフ看板ヲ掲ゲタリ、
右事務所ニハ毎日実行委員何名カ詰メ居ルコト、ナル

〔出席者〕47人 父兄会⑧ 三浦新兵衛 高橋喜三 小島源兵衛

眞野常雄 斎野直吉 遠藤純平 栗田権三郎 三浦久松

〔同窓会②〕 渡辺茂蔵 山口弘三 松沢甚壽 篠田秀男 渡辺友次

郎 土佐林豊成 仲野信司 高木正征 原田善明 鹿野彦吉 菊地

律郎 中村源三郎 小野正知 佐々木仁一 都築正英 相良毅 松

沢太治郎 富樫晃全 多田愼吾 縄野文男 古沢久次郎 及川四郎

国井勝夫

〔学校側⑩〕 柳原 田中 田島 深町 黒田 尾関 長谷部 村岡

黒沼 仲野 岡部（マツ） 岡部 小松 和田 佐淳、矢口

〔十五日 才茶一本 遠藤氏ニ謝礼〕

〔才茶一本一五〇円（同窓会） 東北大学合併促進本部事務局用〕

昭和廿参年七月拾六日

打合会 午後四時本部事務（遠藤氏宅）ニ於テ打合会開キ ①上京

ニツキテ ②署名等ニツキテ 相談ヲシタ

出席者 ○篠田秀男 渡辺友次郎 松沢太治郎 都築正英

新聞記者 朝日ノ降矢氏

○深町 田中 和田 佐藤（淳）

遠藤主人 ノ十氏

昭和廿参年七月拾九日

教授会 大学昇格関係ノ教授会ヲ開ク（午前十時 於会議室）

（1、陳情書ニ署名関係 2、県会議員訪問等）

昭和廿参年七月拾九日

一、東京都出張。左記五名上京文部大臣へ陳情書ヲ提出スルコト、
ナル。

高橋常治——二十日出発

一、父兄会代表へ

遠藤純平——二十日出発

山本武治

一、同窓会代表——第五回卒 鹿野彦吉——十九日出発

田中菊雄
一、学校代表 へ 二十日出発（午後八時）
深町弘三

昭和廿参年七月廿日

一、公聴会 午後一時市会議事所ニ於テ 山師 一ノ公聴会ヲ開ク、

山高

青年師

大勢ハ東北大合併案支持ノ傾向ニアリ

山形市会テハ之二依ツテ方針ヲ決定スルモノト見ラレル、

昭和廿参年七月廿日

一、出張 大学昇格問題ニツキ 花岡教授 仙台市へ出張ス

昭和廿参年七月廿四日

一、懇談会 本日午後四時 会議室ニ於テ開催シ

東京ノ状況報告

仙台ノ状況報告 一等アリテ午後十一時頃閉会ス
其後ノ経過報告

参会者34人 父兄会4 三浦久松 高橋喜三 三浦新兵衛

高橋常治

同窓会7

縄野文男 遠藤修平 都築正英
朝井一男 渡辺友次郎 篠田秀男

山本林

生徒側4 萱場喜代志 岡田剛 神保義一

大川幹彦

学校側19 深町 田島 黒田 黒沼 長谷部

村岡 仲野 小松 尾関 花岡

寺崎 大野 寒河江 矢口 近江

渋谷 中村 高山 佐藤（淳）

〔最中八八〇円〕

〔トマト一四〇円〕

昭和廿参年七月廿五日

一、協議会 午後五時十五分校長室ニ於テ 父兄会 代表者ト大城

視学官ト大学昇格問題ニツキ協議スルトコロアリ

（出席者15人）・父兄会 小島源兵衛 高橋常治 高橋喜三

・同窓会 縄野文男 仲野信司 渡辺友次郎

朝井一男 結城光太郎 遠藤修平

・生徒側 萱場 岡田剛

〔・学校側 大城視学官 北岡校長 黒田庶ム課長 佐藤生徒課員〕
一、教授会 午後一時半教授会ヲ開ク

北岡校長

大城視学官 臨席ノ上大学昇格問題ニツイテ

一、仙台へ出張 喜多教授、花岡教授 東北大学へ出張シ同大学ノ
意向ヲ聞ク

昭和廿三年七月廿七日

- 一、深町教授、黒田教授、高橋前校長宅ヲ訪問シ大学昇格問題ノ経過ヲ報告シ了解ヲ求ムル処アリタリ、

昭和廿三年七月廿八日

- 一、委員会 午後一時 大学昇格委員会 会議室ニ於テ開催セラル
- 二、小委員会 校長官舎ニ於テ開催シ午後十二時ニ至ル、

昭和廿三年七月卅日

- 一、顔合会 午前十一時より本校会議室に於て山形大学に関し
- 山形師範学校 七名
- 米沢工専校 五名 各校代表の打合せ会開催された、
- 山形青年師範校 三名

昭和廿三年七月卅壹日

- 一、委員会 午前十時ヨリ校長室ニ於テ委員会アリ、校内委員丈

昭和廿三年八月壹日(日)

〔(第一回)〕

- 一、準備委員会 午前八時三十分ヨリ会議室ニ於テ第一回準備委員会アリ

県―七名―四名来校

― 25名

各校―五名ツ、(二十名)

昭和廿三年八月貳日

〔(第一回)〕

- 一、午前八時三十分より会議室に於て山形大学設創立小委員会を開いた

各校二名ツ、出席当校ヨリハ 喜多

花岡 両教授

父兄会

- 一、午後七時より校長室に於て 同窓会

山形大学について経過報告をかねて打合会を開催した

出席者 父兄会六名(吉江、為本、三浦(新)、遠藤(純)

高橋(常) 小島(源)ノ六氏

同窓会六名(鹿の彦吉、朝井一男、渡辺友次郎、菊地律郎、

及川四郎 結城光太郎ノ六氏

学校側十名(北岡校長 田島 黒柳 黒沼 長谷部 深町

黒田 村岡 小松 寺崎 ノ十氏、

外二佐藤(淳) 渋谷、峯田。

〔お菓子 八三五円 最中 羊羹代〕

昭和廿三年八月参日

- 一、小委員会 午前十一時半より会議室に於て第二回小委員会を開く

各校二名ツ、代表者出席 計八名

昭和廿参年八月四日

一、第二回委員会 午前八時三十分ヨリ会議室二於テ第二回山形大

学創設委員会ヲ開ク。

県一七名 各校一 名ツツ

昭和廿参年八月五日

一、人事委員会 校長室に於て開催された、

一、教授会 午前九時より図書閲覧室に於て昨日の委員会の報告其

の他について開催された

昭和廿参年八月六日

人事委員会 校長室に於て

昭和廿参年八月七日

校長会一校長室に於て開催された 各校々長(四名)

山形大学について

一、人事委員会 校長室に於て開催された

昭和廿参年八月八日

一、上京 学校長 大学昇格について文部省に出張せらる

昭和廿参年八月拾日

一、出張 喜多教務課長 峯田庶務課員 文部省へ出張

(午後二時五十分仙山線廻りで)

(大学昇格関係書類 文部省へ提出ノ為)

昭和廿参年八月拾八日

一、山形大学創立委員会 午前九時から師範学校で開催

〔山形大学創立委員(山高分)七名 深町教授 小松教授 喜多教授

花岡教授 村岡教授 黒沼教授 大野教授〕

昭和廿参年八月拾九日

一、教授会 午前九時から会議室に於て、

一、組合総会 午後四時から会議室に於て教員組合臨時総会あり、

(右各大学関係)

昭和廿参年八月廿日

一、各科代表者協議会 午前九時ヨリ校長室二於テ開催、

一、米工専(大野教授 喜多教授 寒河江事務官 出席)

師範学校(矢口 中村 高山 事務官 出席)

各校代表者打合せ開催さる、

昭和廿参年八月廿老日

一、教授会 午前九時から会議室で大学に関し教授会を開催された、

昭和廿参年八月廿参日

一、教授会 午前九時から会議室で開催した

一、山形大学創立委員会 午後師範学校に於て開く

昭和廿参年八月廿四日

- 一、打合せ 午後一時から山形師範学校で各校事務関係打合せがあつた（本校からは寒河江 中村 両事務官出席した）

昭和廿参年八月廿五日

- 一、校長会 午前中校長室に於て
- 一、創立委員会 午後開催された

昭和廿参年八月廿六日

- 一、校長会 午前中ヨリ校長室ニ於テ開催サレタ
- 一、教授会 午前九時ヨリ会議日ニ於テ開カレタ
- 一、事務員打合せ —— 事務組織案ニツイテ

昭和廿参年八月廿七日

- 一、教授会 午前九時ヨリ会議室ニ於テ開催、
- 一、校長会 校長室ニ於テ開カレタ、
- 一、北岡校長 上京サレタ、
- 一、事務員各校代表打合せ 山形大学事務組織案ニツイテ。午後四時ヨリ本校事務員打合せガアツタ。

昭和廿参年八月廿九日（日）

- 一、午前十時ヨリ会議室ニ於テ教授会ガアツタ、

昭和廿参年八月卅壹日

- 一、事務員打合せ 午後一時各校代表事務打合せヲ開イタ（山形大学ニ関シテ）

〔九月一日〕

- 一、校長会 午後校長室で
- 教授会 午後三時 会議室で
- 事務部会 午後四時図書閲覧室で開催された

〔九月五日（日）〕

- 一、教務課員及庶務課員 執務 山形大学関係（組織）書類作製 山師、米工専、青年師も来校された
- 午後五時五十分仙山線廻りにて、右書類携带上京された、

昭和廿参年九月九日

- 一、公聴会 午後三時一大教室で山形大学案について、
- 学校側 北岡校長 大学創立委員
- 生徒側 自治会
- 斗争委員

昭和廿参年九月拾日

- 父兄会
- 一、役員会 同窓会 役員 午後正七時ヨリ会議室で開かれた
- 父兄会（五名）（来校順）

遠藤純平 三浦久松 吉江与四郎

三浦新兵衛 為本自治雄

同窓会 (四名) 渡辺友次郎 菊池^(他)律郎 結城光太郎

篠田秀男

学校側 (十一名) 北岡校長 田島教授 大野教授

黒田教授 深町教授 柳原教授

田中教授 黒沼教授

佐藤(淳) 高山 渋谷

議題 1、報告 山形大学ノ経過

2、期成同盟会について

3、授業料徴収について

4、創立準備委員会について

5、若い人の左傾思想について

父兄会

同窓会 総会開催について

1、会場 学校

2、期日 九月廿五日(土)

3、時間 午後二時

県下全部会員二出スコト

昭和廿参年九月拾六日

同窓会 二六〇

一、発送 父兄会 二六〇 総会開催案内状(葉書) 発送シタ

一、教授会 午後三時ヨリ教授会 会議室ニ於テ開催ス

議題(大学入試準備ノ件 教授住宅ノ件 出欠調査簿配リ方ニ

ツイテ、学校長生徒ニ對スル接スル語スル機会ヲ多クス

ルノ件 地質専任教授ニ関ル件)

昭和廿参年九月廿五日

同窓会

一、父兄会 合同会 午後二時ヨリ 講堂ニ於テ開催

父兄会八午後五時閉会 同窓会八午後七時十五分閉会シタ

出席者 父兄会 一〇九名

同窓会 四四名

昭和廿参年九月廿九日

一、山形大学創立委員会

図書閲覧室ニ於テ午前九時ヨリ午後六時頃まで

集會者 約三十名

昭和廿参年九月卅日

一、同窓会常任理事会 午後四時ヨリ会議室ニ於テ開ク

1、経過報告 2、本会ノ組織運営について

昭和廿参年拾月五日

一、同窓会臨時総会開催ニツイテ案内状 県外(東京 仙台、新潟)

会員へ三十通発送シタ

東山^(三) 華山親義外十四名

仙台 朝倉久松外八名
新潟 糟谷宗男外五名

昭和廿参年拾月五日

一、父兄会 午後七時ヨリ会議室ニ於テ開催

出席者(高橋常治 遠藤純平 大内有恒 為本自治雄

三浦久松 高橋類治 吉井与四郎 眞野常雄 八名

校長、柳原 村岡 黒田高山 渋谷 峯田 七名

二年

1、三十日マデ催促状ヲ出ス― 三年 デ金ヲ出サヌモノ

2、県下ノ父兄 [総会]―十七日午前十時(日)

3、代表者 市：五名

町：三名

4、名簿作製 一クラスニ氏名ニ父兄名ニ住所ニ職業ニ納金状態ニ備考

昭和廿参年拾月六日

一、發送 第四高等学校長へ 学校史惠送ニ関スル件

昭和廿参年拾月八日

一、發送 来十五日ノ開校記念式並ニ本会總會開催ニツイテ案内状

(はがき) 二百十九通(県下) 發送した。

昭和廿四年式月拾參日

一、同窓会懇談会

午後七時から 校長官舎に於て開催され 午後十二時終了した
集會者 北岡校長、黒田常任理事 繩野常任理事

篠田会長代リ 渡辺常任理事、

佐藤(淳) 書記ノ六名

昭和廿四年式月拾七日

一、岡部先生送別会

岡部先生には名古屋市南山大学に御榮転

不日御出発につき同窓会員有志二十名市内梅月堂三階に集

まり送別会を催した 午後七時半終了

出席者 岡部先生

篠田秀男 仲野信雄 土佐林豊成 渡辺一男 杉山哲也

古沢久次郎 渡辺友次郎 長井益雄 小野悌 荒井作二

横山憲史 松野尾勝平 村山義平 富樫晃全 小関守之助

山本林 柏倉亮吉 山口弘三 及川四郎 佐藤淳治

会費金五百円 御餞別四、〇〇〇円

御土産として菓子箱一ヶ(五百二十円ノモノ)

県庁側才餞別二、七〇〇円 師範側九〇〇円

昭和廿四年式月拾八日

一、同窓会臨時總會

午後六時ヨリ会議室ニ於テ緊急臨時總會ヲ開催サレタ

出席者

平沢敏 矢尾板孝一 朝井一男 及川四郎 菊地律郎 篠田秀男

柳原吉次先生 北岡先生 黒沼先生 黒田先生 長谷部先生

田中先生 阿部義謙 寒河江幸雄 佐藤淳治 高山英夫

決定事項 寄附八前ノ通り実行スルコト

学校側ニ於テモウ一度人事ニ関シテ考慮スルコト

各支部ニモ寄附ニツキ依頼状ヲ発送スルコト

昭和廿四年式月廿四日

一、発送 山形大学創設資金寄附金募集二関シ左記ノ通り発送シタ、

1、前二分納サレタ方へ 五五通

2、新規寄附サレル方へ 一五六通 追加7通

3、支部へ十四通 追加一通

昭和廿四年参月四日

父兄会

懇談会 同窓会 合同（於校長室）

時間 午後六時半ヨリ

出席者 父兄会 遠藤純平 為本自治雄 長谷川謙

高岡市五郎 高橋類治 中村伊太郎

同窓会 渡辺友次郎

学校 北岡先生 柳原先生 田中先生 黒田先生

平松先生 黒柳先生 寒河江、佐藤（淳治）、

高山 峯田 川住ノ各事務

議題 1、敷地問題

2、教官住宅問題

付録

本資料の掲載にあたり、本文は横書きから縦書きに、漢字は原則として常用漢字に改めた。なお、仮名遣い及び句読点については原文のままとし、本文中の追記箇所については*で記した。また、筆者による注記は右傍に（ ）で記し、正しい表記が明らかなる場合は傍に（ ）で示した。

ふすま関係資料のこと

*山高27回 伊藤博

山形高等学校は戦後学制改革で山形大学文理学部となり、さらにこれが人文学部、理学部、教養部に分かれその間に旧山高関係の資料は何んとなく引継がれて、理学部の会計係の倉庫に眠っておりました。

その倉庫を整理することになり、この資料をどう処分しようかとなった時、当時の学生係長^{事務係長}土田芳太郎さん（故人）が、私が旧制高校出身であることを覚えておられて、私に話がありました。私がこの資料を拝見しに行つて見ますと、倉庫の一隅にただ雑然と色々な物が積み重ねてあり、玉石混淆という感じでした。しかし長い間よく散逸しないで残っていたものだと感じました。内容はともかく、よくこれまで引継がれてきた物を、このまゝ処分してしまつては、将来に禍根を残すことになるのではないかと思つたので、幸い私に話があつたのを機会にどうやって保存したらよいかと考へました。

*（昭和42年以後）教養部に分割後目録作つて博物館

山大には博物館があるので、将来必要が出て来るまで、一時寄託していた、だくことを考え、簡単な目録を作成して寄託していただくことにしました。当時教育学部には立派な同窓会館があつて卒業生との連絡等をやつておられたので、我がふすま同窓会でも将来同窓会館でも出来た折には展示資料として役立つのではないかと考へたからです。

幸い開校七十周年を記念して同窓会館が建設されることになり、中村博建設委員長のお話して同窓会館の一室に資料室を作つていただくことになり、ここに博物館から移籍して今日に至つたものであります。

この時今迄の経緯もあるので、お前少し整理してみてくださいとの話しがあり、今度は一点一点実物に當つて目録を作成し、資料には整理番号を表示しました。改めて整理してみますと、開校当時の文部省との関係資料や、地元の協力者名簿や、在学生の出席簿、成績表等や、校旗をはじめ、初代三輪田校長の写真、全国競技大会での優勝盃等の実物資料もあり、大変興味深い資料が数多く拝見されました。

なお、その後山形高等学校五十年、山大理学部二十年を記念して編集された写真集「母校回顧」にも

初期山高

校旗、初代校長三輪田輪三先生写真

寮関係

寮務室玄関の扁額、クラスマッチの優勝旗、学寮日誌、寮務日誌、宿直日誌、秘 始末書綴 等々

という形で利用されたり、またこんな事もありました。

資料の中には受取り手のない卒業証書も残っており、何故か私の同期の昭和二十四年卒の方のものが多数残っており、先日クラス会が山形であつた時、参加者の比佐昭君に六十年数年ぶりに私が当時の北岡校長にかわつて卒業証書をお渡ししたという事もありました。こんな事も資料が残つていたから出来たことではないかと思ひます。

なお、今回の同窓会館の増築にともない、最初は二階に展示出来るようなスペースを考へられたようですが、予算の関係で止むをえず割愛されたとのことで、全資料をじかにご覧いただけなくなつたことは大変残念に思つております。しかし、これらの資料は何等かの形で旧制高校の歴史の一齣として後世に伝えられる価値が十分あるのではないかと考へている次第です。

伊藤 博

註

(一) 昭和五年(一九三〇) 発会の山形高等学校同窓会と昭和二六年発会の山形大学文理学部同窓会とが昭和二八年に合体して成立した、旧制山形高等学校、山形大学文理学部・人文学部・理学部・人文社会科学部卒業者・在校生を主な構成員とする組織である。現在、ふすま同窓会館(山形市東原町一四一九)内に事務局が設置されており、野村一芳会長を中心に組織運営がなされている。

(二) 国が直接設置し、文部省(現在の文部科学省)が管理を行つていた国立学校について定めていた法律であり、その下位法である国立学校設置法施行令、国立学校設置法施行規則などとあわせて国立大学等の組織や職員について厳格に規定していた。なお、同法及びその下位法は平

成一五年（二〇〇三）の国立大学法人法施行をうけて平成一六年四月一日に廃止された。

(3) 『ふすま同窓会員名簿 第三号 昭和三五年九月現在』（山形高等学校四十年記念会、一九六〇年）によると、伊藤博氏は昭和四四年（一九四九）三月に理科を卒業した旧制山形高等学校第二七回生であり、同名簿発行当時は「山大附属図書館」に配属されていた。なお、その後同館係長、事務長、さらに人文学部事務長などの要職を歴任した。

(4) 昭和四二年（一九六七）六月一日、文学部部の改組により同学部理学科を母体として設置された。

(5) 「ふすま関係資料のこと」によると、伊藤氏は当時の学生係長土田芳太郎氏から相談をうけた、とある。ところで、『山形大学五十年誌』（山形大学創立五〇周年記念事業実行委員会、一九九九年）によると、

理学部の事務組織において学生係が存在していたのは理学部設置当初から昭和四四年（一九六九）までであり、これ以降は学生係と厚生係とが統合されて学務係となった。土田氏は昭和五三年に教育学部の厚生係長となる以前、理学部の学務係長を務めており、処分されるはずだった資料が山形大学附属博物館へ一時寄託されたのが昭和五三年のことであるから、倉庫整理もおそらくその頃に行われたものと考えられる。

(6) 山形大学教育学部の前身である山形県師範学校に設置されていた「郷土室」を引き継ぎ、昭和二七年（一九五二）に「山形大学附属郷土博物館」として発足したが、その後の博物館の性格変化をうけ、昭和五三年五月からその名称が「山形大学附属博物館」に改められた。

(7) 山形大学附属博物館には、昭和三三年（一九四八）三月に理科甲類を卒業した旧制山形高等学校第二六回生で「日本のゲーム理論の父」とも評される経済学者、鈴木光男氏が所蔵する旧制山形高等学校関連資料（以下、鈴木光男所蔵資料という）が寄託されている。その中に在学当時実際に使われていた英語やドイツ語の授業プリントが残されているが、それらもまた戦前の同校入学試験問題・解答用紙の裏面を再利用したものである。このことについては、二〇一七年度山形大学附属博物館特別展「山形大学附属博物館ものがたり」収蔵品が語る90年のエピソード」及び二〇一八年度小白川図書館オープンキャンパス特別

展「秋水の時代の山形大学」において鈴木光男所蔵資料の一部が公開された際に山形大学附属博物館から御教示いただいた。さらに、『創立四十年誌』（山形高等学校四十年記念会、一九六〇年）の年表によると、昭和二〇年九月一日の事項として「校庭の整備完了授業開始、教科書は以前の入試答案紙の裏などにガリ版印刷」（一五六頁）と記されていることから、教科書印刷用紙としても再利用されていたのである。おそらく、校内に保管されていた入学試験問題・解答用紙は終戦直後の物資調達困難な状況下において授業用教材や原稿用紙として再利用されていたものと考えられる。

(8) 明治一九年（一八八六）一月二八日、山形県東置賜郡上郷村上新田（現山形県米沢市）に生まれる。米沢興讓館中学校、第一高等学校を経て明治四〇年に東京帝国大学文科哲学科へ入学、卒業後は同大学大学院に学んだ。旧制第六高等学校講師、同教授、旧制新潟高等学校教授を経て大正一〇年（一九二二）に東北帝国大学理学部助教授に就任した。大正一四年から二年間ドイツ留学の機会を得ると、ハイデルベルグ大学、フライブルグ大学でリッケルト、フッサールに学んだ。帰国後、昭和三年（一九二八）には東北帝国大学文学部教授に就任し、学部長を三期務めた。『東北大学五十年史 上』（東北大学、一九六〇年）によると、三期目の学部長を辞任したのが昭和二二年四月のことであり、その後昭和二三年三月に定年退官を迎えるまで東北帝国大学（昭和二二年一〇月一日から法令改正により東北大学へと改称）に在籍していた。したがって、高橋は昭和二二年一〇月から旧制山形高等学校長の職を兼務していたことになる。

〔附記〕 本稿をまとめるにあたり、資料調査を御快諾いただいたふすま同窓会の野村一芳会長及びふすま同窓会に記して謝意を述べたい。なお、資料の翻刻に際して山形大学大学院社会文化システム研究科文化システム専攻新宮学教授、小幡圭祐准教授より多大なる御教示をいただいた。